原告には必ず お届け下さい

2017年10月02日 148号

生活保護制度を良くする会

ニュース

事務局 道 生 連 電 話 011-736-1722 ファックス 011-736-1688 メ - ル <u>seihoyokusurukai</u> @herb. ocn. ne. jp

職し、退職金を弁護士費用にあて、ほとんど

新・人間裁判の第12回口頭弁論での、佐藤育子さん(53才・札幌市厚別区)の陳述です。



私は、青森県黒石市で生まれましたが、私が物心ついた時から母はいませんでした。小学校、中学校、そして高校へ進学し、

高校 1 年生も半年を過ぎたころに突然、父に連れられて行った先が、母のいる北海道福島町でした。そして何も知らない内に転校の手続きが取られていて。高校生活の大半は福島町で過ごしてきました。

卒業後、集団就職で、静岡県伊東市の山の上にある天城東急ホテルのレストランに勤務しました。そこを4年ほどで退職し、伊東市の町に降りてきました。温泉街ということもあり、ホテル業が多く、仲居、スナック、コンパニオンと働きながら普通に暮らしてきました。

その暮らしの中で、ほかのホテルの送迎バスの運転手をしていた夫と知り合い、結婚をしたのでした。平成 16年には夫の転勤で栃木県那須塩原市に住むことになり、そんな中、子供も授かる事ができましたが、周りに知っている人もいないので、母に連絡を取り、北海道で出産することにして、平成 17年1月24日、無事女の子を出産。健康状態を確認して1年ほどで栃木に帰りました。

栃木の家に帰ると、たくさんのサラ金などの支払いの請求書が置いてあり、夫に聞いても何も教えてくれず、どうしたら良いか悩んだ挙句、夫の上司に相談しました。<u>調べ</u>たところ借金が1千万以上もあり、しゃべる気力もなくなりました。

上司の方にお願いして弁護士を紹介しても らって相談した結果、自己破産の手続きを取 りなさいとすすめられました。夫は会社を退 無くなりました。

また社宅に住んでいたのですが、退職したことで住んでいられなくなり、なんとか近くにある家を借りられましたが、そこから思いもよらない生活が始まりました。子どもが生まれるまでは、お互いに働いていたので、生活費は折半で暮らしていたのですが、子育てに手がかかり、毎日の食品などの買い物は1日1000円をもらってやりくりをする、ミルクやおむつ代は買うときは自分がついてきてお金を払うなど何一つ自由に買えない状態の連続でした。

失業保険をあてにして夫はろくに仕事をせず、2~3か月生活が出来ないことが続きました。私はご飯さえあれば、卵かけごはんと納豆ごはんと我慢の生活をしました。

しかしあまりにも大変な生活だったので、 母に相談し、離婚して母のいる北海道に戻る ことにしました。

そこからは、とにかく子供を預けるところを先にと考え、仕事も探しました。母の年金生活に迷惑をかけたくないと思いながら、でも仕事は見つからず、半年が過ぎてしまいました。その時に母からすすめられ、このままでは家族二人が餓死しなければならなくなってしまうとの思いから、生活保護へとたどり着き、平成 18 年 9 月から生活保護を受けました。

生活保護を受けながら、仕事を探し、腰が 痛いのを我慢して食堂で働くようになりまし た。子どもが小学校に入学してから少し時間 が出来たので受診したところ「腰部脊柱管狭 窄症」と言われ、手術をすすめられましたが、 子どもを育てるのを優先し、通院で済ませて きました。 しかし腰痛がひどくなり、昨年の夏に手術をしました。1年近く安静にして、次の仕事に向けて体力をつけてリハビリ中です。

今年、娘が中学生になりました。周りの人から「中学校へ行ったらお金がかかるよ」と言われていましたが、本当に大変です。なんとかやり繰りして無事入学しましたが、制服だけは、保護費で支給された金額だけで買うことが出来ましたが、体育着や靴、夏服など買うことが出来ず、4月10日過ぎに支給された児童扶養手手当で支払い、ようやくそろえたやることが出来ました。全額で5万円ほどかかりました。

母子家庭に支給される児童扶養手当は、4か月に1回、私の場合は全額支給なので、1か月42,290円の4カ月分が支給されますが、保護費から全額収入認定されてしまいます。但し、その代替えなのでしょうか、母子加算として1か月22,790円が支給されますが、1か月に約2万円近く引かれているので、本当にやりくりが大変です。

また、娘は、「中学での部活でバスケットを やりたい」と言うので、今まで生活保護につ いて、詳しく説明をしました。でもやりたい という願いはかなえてあげたいと思っているいて、詳しく説明をしました。でもやりたいので、バスケットのユニホームや靴、遠征費の積立金などこれも5万円ほどかかりましたが、これも児童扶養手当で捻出したために、殆ど使い果たしてしまいました。

2013年8月から、3年間に渡って保護費が月約8,000円引き下げられ、冬季加算も年間25,400円削減されたのでたいへんな生活となっています。昨年手術したことで家にいる時間が長くなり、冬季の生活も大変になりました。

今は、日々の節約を一緒にしていまが、娘は食べ盛りの上に、特に肉が好きなので、焼き肉をしてもほとんど娘に食べさせるようにしています。それでも学校へ行っている時は給食がありますが、夏休みや冬休みには3食用意をしなければなりません。これからも、まだ下がるのかと不安です。また、娘が高校、大学と進学していく時のために私の身体が完全に回復して、1日も早く働きたいと思っていますが、それが出来るのかとても不安です。毎日を思い悩まない生活を送りたいです。私たちの悲痛な言葉に耳を傾けてください。





原告には必ず お届け下さい

2017年10月02日 148号

生活保護制度を良くする会

ニュース

事務局 道 生 連 電 話 011-736-1722 ファックス 011-736-1688 メ - ル <u>seihoyokusurukai</u> @herb. ocn. ne. jp

職し、退職金を弁護士費用にあて、ほとんど

新・人間裁判の第12回口頭弁論での、佐藤育子さん(53才・札幌市厚別区)の陳述です。



私は、青森県黒石市で生まれましたが、私が物心ついた時から母はいませんでした。小学校、中学校、そして高校へ進学し、

高校 1 年生も半年を過ぎたころに突然、父に連れられて行った先が、母のいる北海道福島町でした。そして何も知らない内に転校の手続きが取られていて。高校生活の大半は福島町で過ごしてきました。

卒業後、集団就職で、静岡県伊東市の山の上にある天城東急ホテルのレストランに勤務しました。そこを4年ほどで退職し、伊東市の町に降りてきました。温泉街ということもあり、ホテル業が多く、仲居、スナック、コンパニオンと働きながら普通に暮らしてきました。

その暮らしの中で、ほかのホテルの送迎バスの運転手をしていた夫と知り合い、結婚をしたのでした。平成 16年には夫の転勤で栃木県那須塩原市に住むことになり、そんな中、子供も授かる事ができましたが、周りに知っている人もいないので、母に連絡を取り、北海道で出産することにして、平成 17年1月24日、無事女の子を出産。健康状態を確認して1年ほどで栃木に帰りました。

栃木の家に帰ると、たくさんのサラ金などの支払いの請求書が置いてあり、夫に聞いても何も教えてくれず、どうしたら良いか悩んだ挙句、夫の上司に相談しました。<u>調べ</u>たところ借金が1千万以上もあり、しゃべる気力もなくなりました。

上司の方にお願いして弁護士を紹介しても らって相談した結果、自己破産の手続きを取 りなさいとすすめられました。夫は会社を退 無くなりました。

また社宅に住んでいたのですが、退職したことで住んでいられなくなり、なんとか近くにある家を借りられましたが、そこから思いもよらない生活が始まりました。子どもが生まれるまでは、お互いに働いていたので、生活費は折半で暮らしていたのですが、子育てに手がかかり、毎日の食品などの買い物は1日1000円をもらってやりくりをする、ミルクやおむつ代は買うときは自分がついてきてお金を払うなど何一つ自由に買えない状態の連続でした。

失業保険をあてにして夫はろくに仕事をせず、2~3か月生活が出来ないことが続きました。私はご飯さえあれば、卵かけごはんと納豆ごはんと我慢の生活をしました。

しかしあまりにも大変な生活だったので、 母に相談し、離婚して母のいる北海道に戻る ことにしました。

そこからは、とにかく子供を預けるところを先にと考え、仕事も探しました。母の年金生活に迷惑をかけたくないと思いながら、でも仕事は見つからず、半年が過ぎてしまいました。その時に母からすすめられ、このままでは家族二人が餓死しなければならなくなってしまうとの思いから、生活保護へとたどり着き、平成 18 年 9 月から生活保護を受けました。

生活保護を受けながら、仕事を探し、腰が 痛いのを我慢して食堂で働くようになりまし た。子どもが小学校に入学してから少し時間 が出来たので受診したところ「腰部脊柱管狭 窄症」と言われ、手術をすすめられましたが、 子どもを育てるのを優先し、通院で済ませて きました。